

4倶楽部目の連覇

6人全員が70台と安定

《第53回九州インタークラブ大会》

～あつまるレークCC

トータル16オーバー 376

熊本空港カントリークラブ



今年で53回目を迎える大会で4倶楽部目の連覇。過去は沖縄国際、小田急大分（現大分竹中）、大博多の3チームしか達成していない。「疲れた。選手は去年優勝したプレッシャーがあっただろうが、連覇できて良かった。去年以上に嬉しい」と太田誠一キャプテンが安堵の表情を浮かべた。

競技は最終1組が上がって来るまで分からなかった。メンバー6人中、上位5人のスコアで争うのだが、参加全36組（144人）中、35組までの成績では宮崎国際が熊

本空港を6打リードしていた。最後の最後で逆転して3打差をつけて栄冠を手にしたわけだが、太田キャプテンの「疲れた」というのは実感である。

去年は負傷者が出て5人で戦った。その5人が7オーバー367の大会記録でぶっちぎりの優勝。今年はメンバーが1人代わっただけ。頂点を知る選手たちが昨年同様に安定したプレーを展開した。6人全てが70台。成績に反映されない6人目の「アブラムシ」が77のスコア。アブラムシが80ストロークだった他の23チームと比べると、その強さが浮き彫りになる。

今回のポイントゲッターは去年のメンバーではない61歳の村山嘉彦。1バーディー、1ボギーのパープレー72と波の少ない内容だった。「ドライバーがまともに当たらず、ドロップして180ヤードくらいしか飛ばなかったが、『4割の力で打て』とのアドバイスを受けて良くなった。80で回る予定だったが、こういうこともある。ゴルフって簡単でした」と頬を緩めた。

強さの秘密を太田キャプテンが明かす。「うちはジャパンに行く一流ばかり。練習ラウンドも各自でやるし、食事会もない。指示を出すこともない」。実力のある各個人が自分の仕事を淡々とこなした。それが連覇に繋がった。

来年は3連覇がかかる。「うちだけの権利。是非とも達成したい」と村山が意気込めば、太田キャプテンも「選手は揃っているし、この勢いで行く」と力強く宣言した。

《ベストグロス》

2アンダー 70

廣永 泰地(宮崎国際GC、25歳)



大会4日前の11月7日に25歳の誕生日を迎え、今回初出場。「ドライバーが良かったし、攻めてバーディー狙いで行きました。ハーフが両方とも赤字(アンダー)で終わった」とガッツポーズだ。ドライバーショットが好調で18ホール中、15番を除く17ホールでパーオン。5バーディー、3ボギーの内容だった。1年を振り返り、「今年最後の(九州ゴルフ)連盟競技でアンダー。国体も行ったし、10月の(宮崎)県アマも勝った。いい年でした」と笑顔を見せた。来年に向けては「今回優勝できなかったのは悔しいけど、来年は強い人が入って来るし、予選を通過して出場したい」とリベンジを誓った。

【あつまるレークカントリークラブ】

